

特定機能病院と地域医療支援病院 の外来の状況

【目次】

1. 特定機能病院の体制について
2. 特定機能病院の外来の状況について
3. 地域医療支援病院の体制について
4. 地域医療支援病院の外来の状況について

1. 特定機能病院の体制について

基本データ

○抽出調査である「平成20年患者調査」と全数調査である「平成20年病院報告」「平成20年医療施設静態調査」を基に、①特定機能病院82病院、②特定機能病院以外の病院で、一般病床が400床以上の病院（以下「一般病床400床以上病院」）を対象にした分析を実施。

○「平均在院日数」とは、注釈がない限り、全病床の平均在院日数を指す。

なお、算定に当たっては、病院報告における定義 $\left(\frac{\text{年間在院患者延数}}{1/2 \times (\text{年間新入院患者数} + \text{年間退院患者数})} \right)$ を用いた。

※特定機能病院として承認を受けている病院は平成24年4月現在で84病院

	①特定機能病院			②特定機能病院以外の病院で、 一般病床が400床以上の病院 （「一般病床400床以上病院」）		
	病院数	病床数	1病院 当たり 平均 病床数	病院数	病床数	1病院 当たり 平均 病床数
対象 病院	82(※)	71,310	869.6	457	256,754	561.8
	患者調査の分析対象 82			患者調査の分析対象 441		
400床以上 500床未満	0	0		216	98,626	
500床以上	82	71,310		241	158,128	

標榜診療科の数

(特定機能病院と「一般病床400床以上病院」)

＜診療科目の承認要件＞医療法施行規則第6条の4

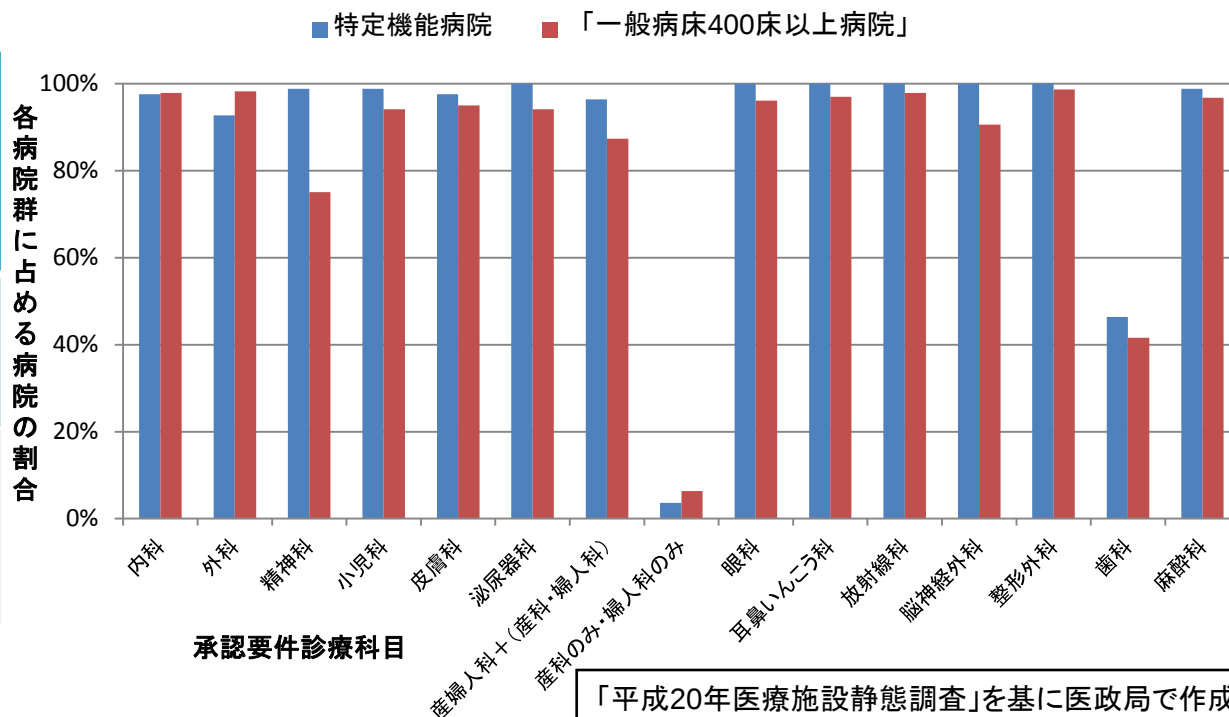
○次のうち10以上の診療科名(標榜診療科)を含むこと。

内科、外科、精神科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、産科、婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、放射線科、脳神経外科、整形外科、歯科、麻酔科

○病院ごとの平均標榜診療科数について、特定機能病院と「一般病床400床以上病院」を比較しても、両者の間にはあまり差がない。

○各病院群における診療科目ごとの当該診療科を標榜している病院の割合について、特定機能病院の場合、歯科を除き、ほとんどの診療科目で100%近い値となっている。(ただし、産婦人科については、産科のみ・婦人科のみの病院が3病院ある。)

	標榜 診療科数 (平均値)	承認要件 診療科目の 標榜科数 (平均値)
特定機能 病院 (82病院)	23.3	12.6
「一般病床 400床以上 病院」 (457病院)	21.3	11.8

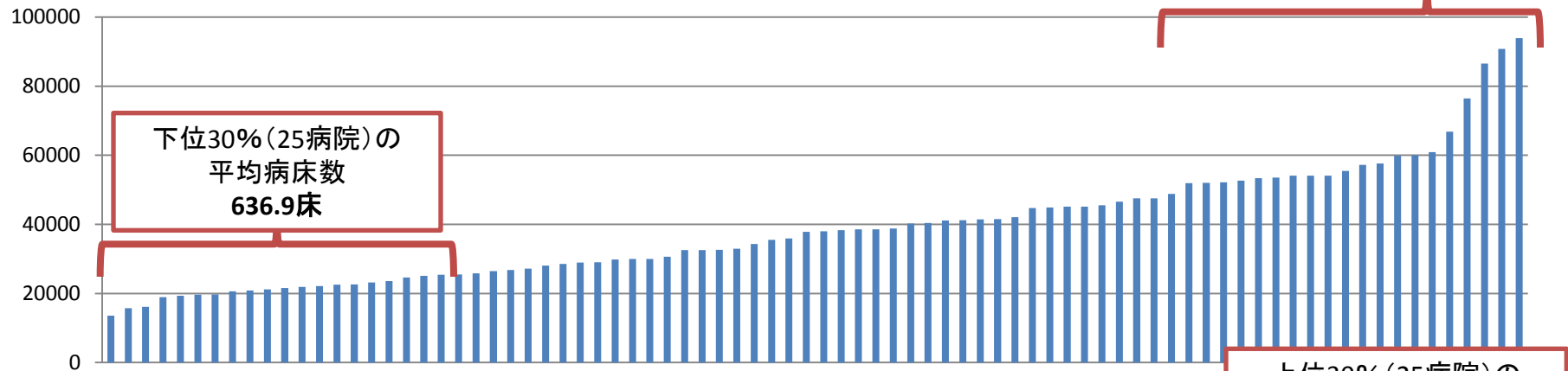


2. 特定機能病院の外来の状況について

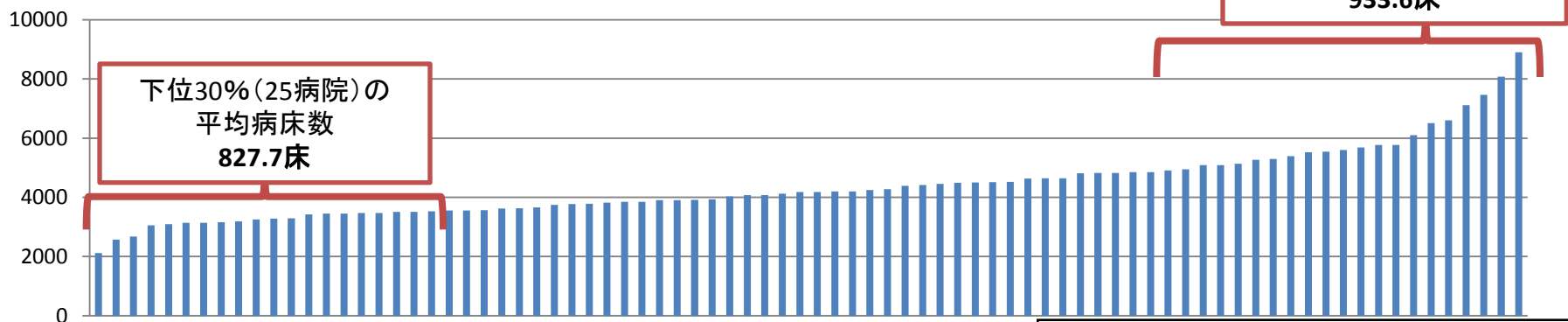
1月あたり外来患者延べ数による分布

- 特定機能病院ごとに1月あたり(9月中)の外来患者延べ数をみると11,545人から90,836人まで、100床あたりに換算しても2,117人から8,901人まで分布しており、病院ごとの差が大きいといえる。
- また、外来患者延べ数の下位30%の病院の平均病床数は636.9床である一方、上位30%の病院は1097.1床であることから、外来患者の数は病床規模に比例しているといえる。

外来患者延べ数(1月あたり)



100床あたり外来患者延べ数(1月あたり)



外来患者の紹介の状況

＜紹介の承認要件＞医療法第16の3第1項第6号、医療法施行規則第9の20第6号イ・ロ・ハ

○他の病院又は診療所から紹介された患者に対し、医療を提供すること。

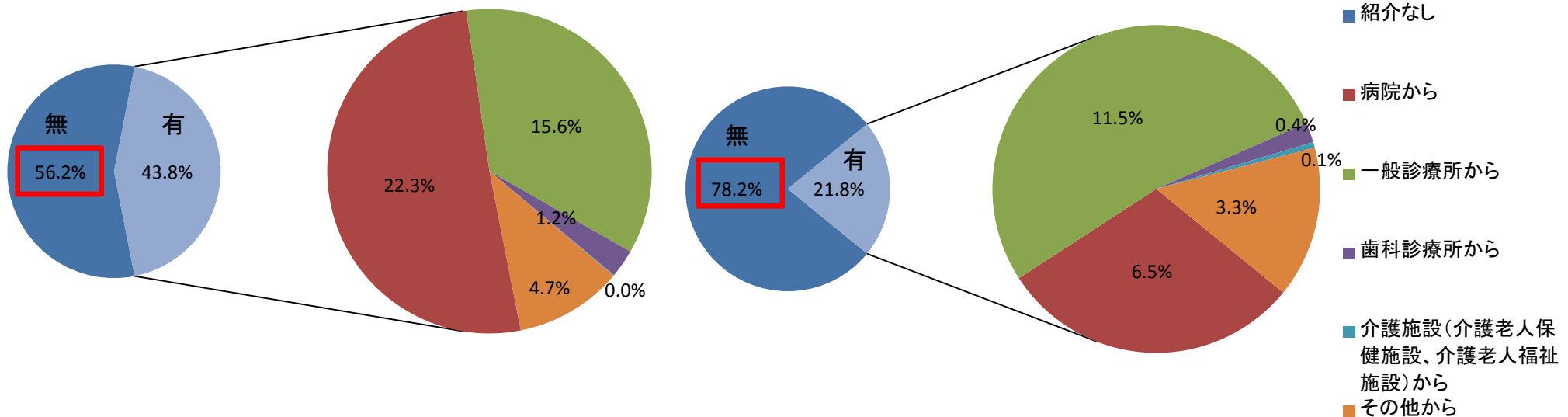
○紹介率が30%以上であること。

$$\frac{\text{紹介患者の数} + \text{他の病院又は診療所に紹介した患者の数} + \text{救急用自動車によって搬入された患者の数}}{\text{他の病院又は診療所に紹介した患者の数} + \text{初診の患者の数}}$$

○紹介なしの外来患者の割合について、特定機能病院は56.2%、「一般病床400床以上病院」は78.2%であり、特定機能病院の方が少ないものの、特定機能病院の紹介なしの外来患者は過半数を占めている。

特定機能病院

「一般病床400床以上病院」



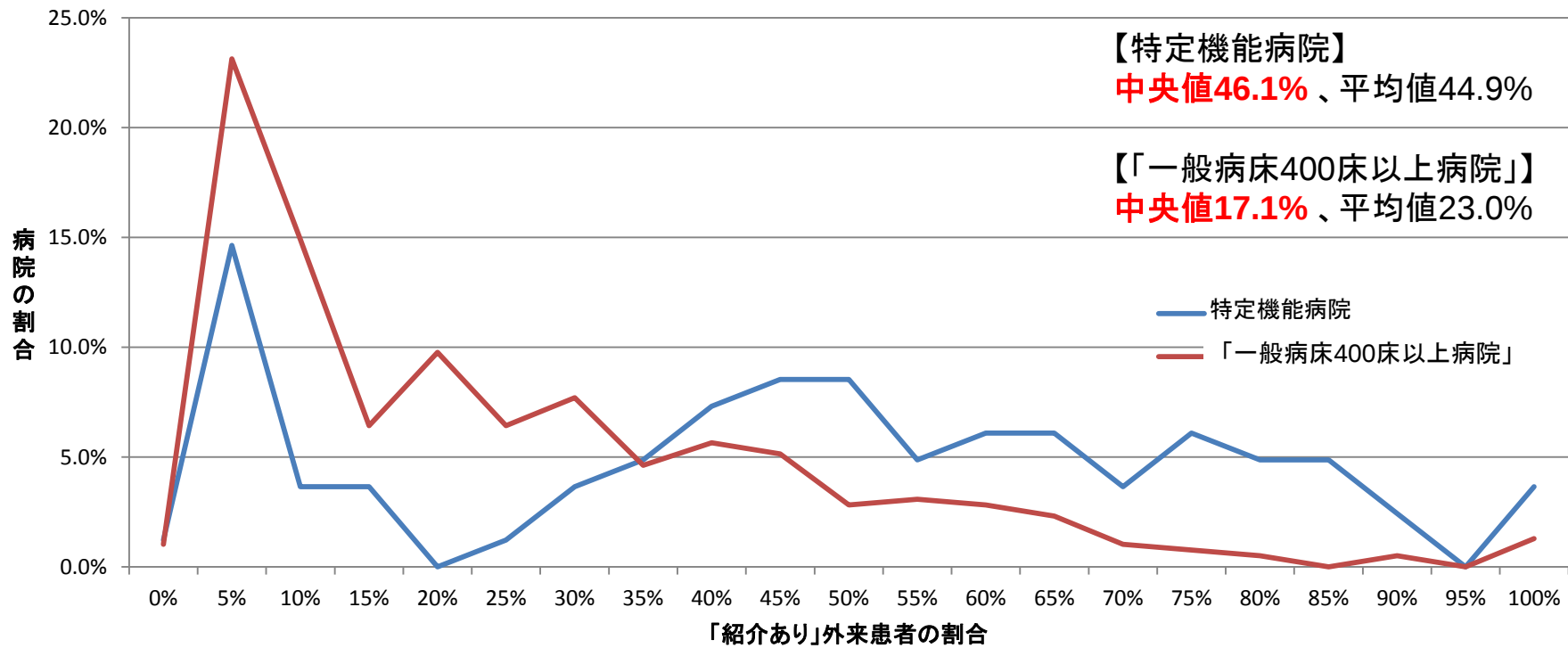
※ここでいう「『紹介あり』外来患者割合」とは、各医療機関における外来患者数に占める初診時の「紹介あり」外来患者数の割合を算出したものであり、特定機能病院の要件となっている紹介率の算定式により算出した割合ではない。

「紹介あり」外来患者の割合 (特定機能病院と「一般病床400床以上病院」)

○「紹介あり」外来患者について、特定機能病院と「一般病床400床以上病院」(※)と比較すると、特定機能病院の方が「紹介あり」患者が多い。両者の中央値の比較では、29%の差がある。

※「一般病床400床以上病院」であり患者調査の分析対象である441病院中、調査月において、外来患者が1名以上であった389病院。

○特定機能病院について、「紹介あり」患者が50%以上の病院は42(特定機能病院の51.2%)と多数である一方で、5%以下の病院も13(特定機能病院の15.9%)と一定程度存在。病院間の差が大きいといえる。



※ここでいう「『紹介あり』外来患者割合」とは、各医療機関における外来患者数に占める初診時の「紹介あり」外来患者数の割合を算出したものであり、特定機能病院の要件となっている紹介率の算定式により算出した割合ではない。

平均外来患者数 (特定機能病院と一般病床を有する病院)

- 1月あたり(9月中)の病院ごとの平均外来患者数について、特定機能病院と一般病床を有する病院(4,376病院)を比較すると、特定機能病院では38,460.6人であり、一般病床を有する病院では7,363.5人。両者の間には約5倍の差がある。
- 平均外来患者数を100床あたりに換算しても、特定機能病院は4,396.3人、一般病床を有する病院では3,891.9人となり、特定機能病院の方が約500人多い。
- しかし、平均外来患者数のうち「紹介なし」患者数について、100床あたりに換算すると、特定機能病院の方が「紹介なし」患者数が約1,100人少ない結果となった。つまり特定機能病院では、100床あたりで比較すると、「紹介なし」患者が相対的に少ないといえる。

	平均外来患者数	平均外来患者のうち「紹介なし」患者の数
特定機能病院	38,460.6人	22,274.7人
一般病床を有する病院(※)	7,363.5人	6,358.2人

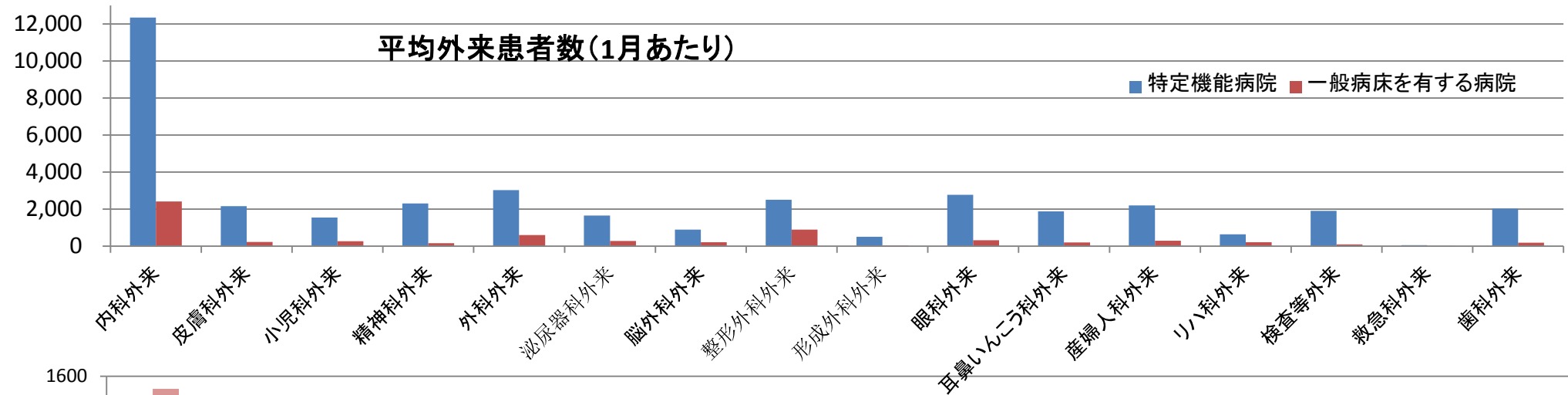
	平均外来患者数 (100床あたり)	平均外来患者のうち「紹介なし」患者の数 (100床あたり)
特定機能病院	4,396.3人	2,496.1人
一般病床を有する病院(※)	3,891.9人	3,624.2人

※ここでいう「一般病床を有する病院」は、6,028病院中、患者調査の分析対象である4,376病院のことである。

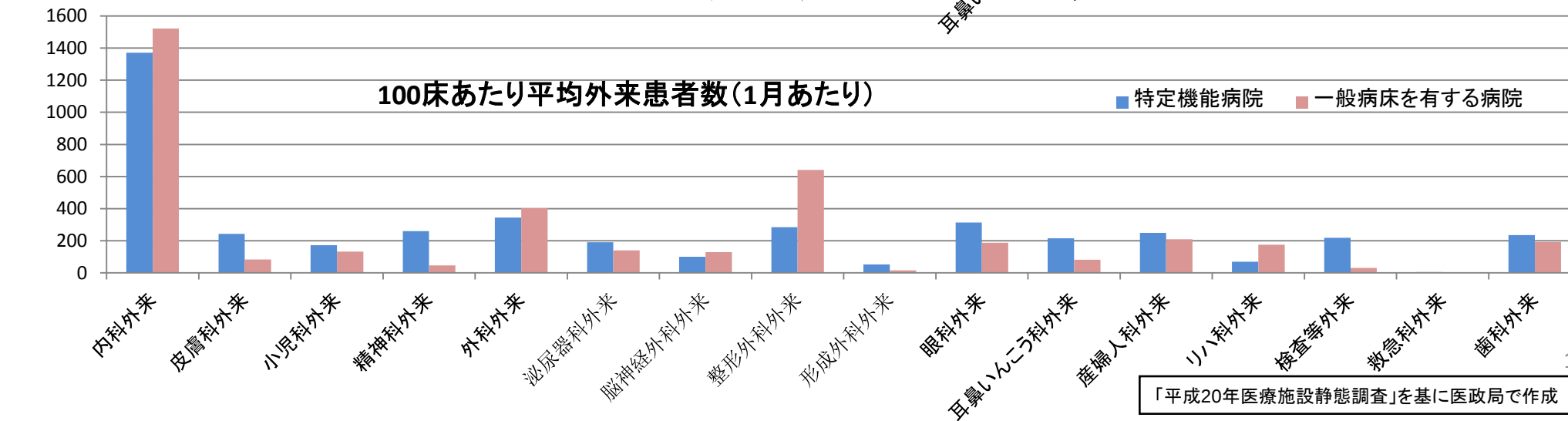
診療科別平均外来患者数 (特定機能病院と一般病床を有する病院)

- 1月あたり(9月中)の病院ごとの診療科別平均外来患者数について、特定機能病院と一般病床を有する病院(6,028病院)全体を比較すると、その傾向に差は見られない。
- ただし、診療科別平均外来患者数を100床あたりに換算すると、整形外科、内科、リハ科等については一般病床を有する病院がより多く、精神科、検査、皮膚科等は、特定機能病院の方がより多い。

平均外来患者数(1月あたり)



100床あたり平均外来患者数(1月あたり)



平均外来患者数

(特定機能病院と「一般病床400床以上病院」)

- 1月あたり(9月中)の病院ごとの平均外来患者数について、特定機能病院と「一般病床400床以上病院」を比較すると、特定機能病院では38,460.6人であり、「一般病床400床以上病院」では21,565.0人。両者の間には約1.8倍の差がある。
- 平均外来患者数を100床あたりに換算しても、特定機能病院は4,396.3人、「一般病床400床以上病院」では3,858.4人となり、特定機能病院の方が約540人多い。
- しかし、平均外来患者数のうち「紹介なし」患者数について、100床あたりに換算すると、特定機能病院の方が「紹介なし」患者数が2,496.1人、「一般病床400床以上病院」では3,154.1人と、特定機能病院の方が少なかった。つまり特定機能病院では、100床あたりで比較すると、「紹介なし」患者が相対的に少ないといえる。

	平均外来患者数	平均外来患者のうち「紹介なし」患者の数
特定機能病院	38,460.6人	22,274.7人
「一般病床400床以上病院」(※)	21,565.0人	17,394.3人

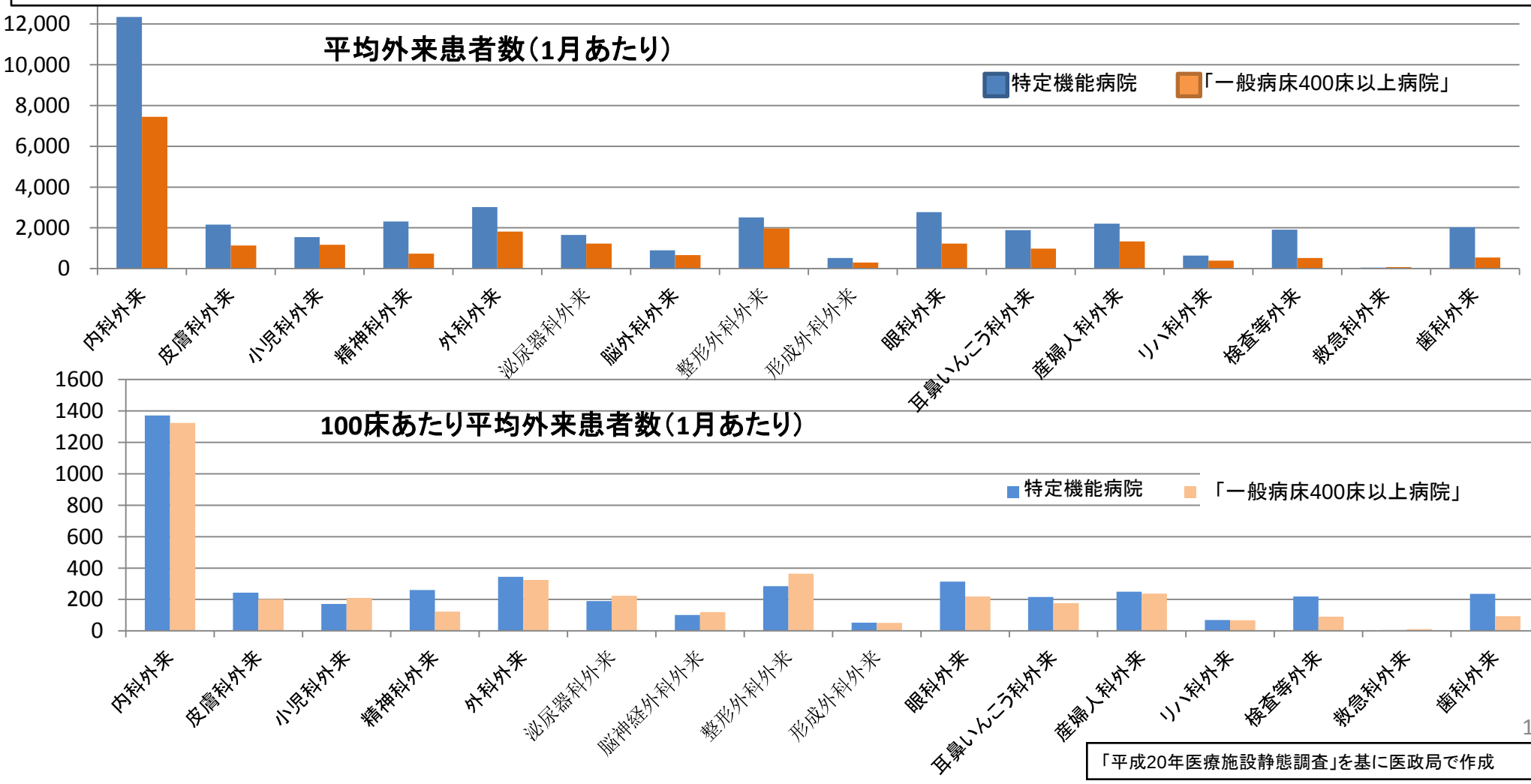
	平均外来患者数 (100床あたり)	平均外来患者のうち「紹介なし」患者の数 (100床あたり)
特定機能病院	4,396.3人	2,496.1人
「一般病床400床以上病院」(※)	3,858.4人	3,154.1人

※ここでいう「一般病床400床以上病院」は、457病院中、患者調査の分析対象である441病院のことである。

「平成20年医療施設静態調査」「平成20年患者調査」を基に医政局で作成

診療科別平均外来患者数 (特定機能病院と「一般病床400床以上病院」)

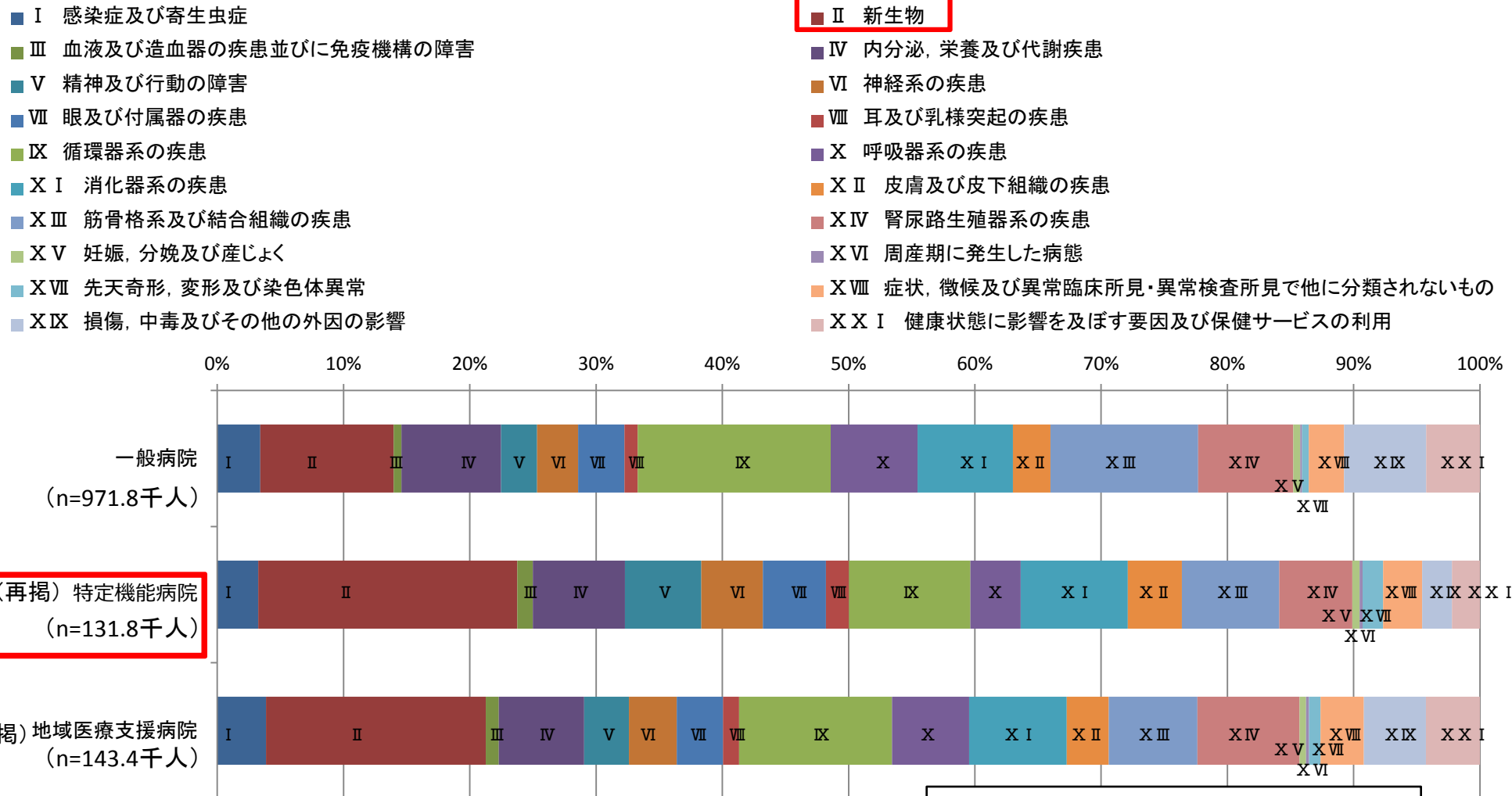
- 1月あたり(9月中)の病院ごとの診療科別平均外来患者数について、特定機能病院と「一般病床400床以上病院」を比較すると、その傾向に差は見られない。
- ただし、診療科別平均外来患者数を100床あたりに換算すると、整形外科、小児科、泌尿器科等については「一般病床400床以上病院」がより多く、歯科、精神科、検査等は、特定機能病院の方がより多い。



病院類型ごとにみた外来患者の傷病構成(割合)

～ 一般病院・特定機能病院・地域医療支援病院の比較 ～

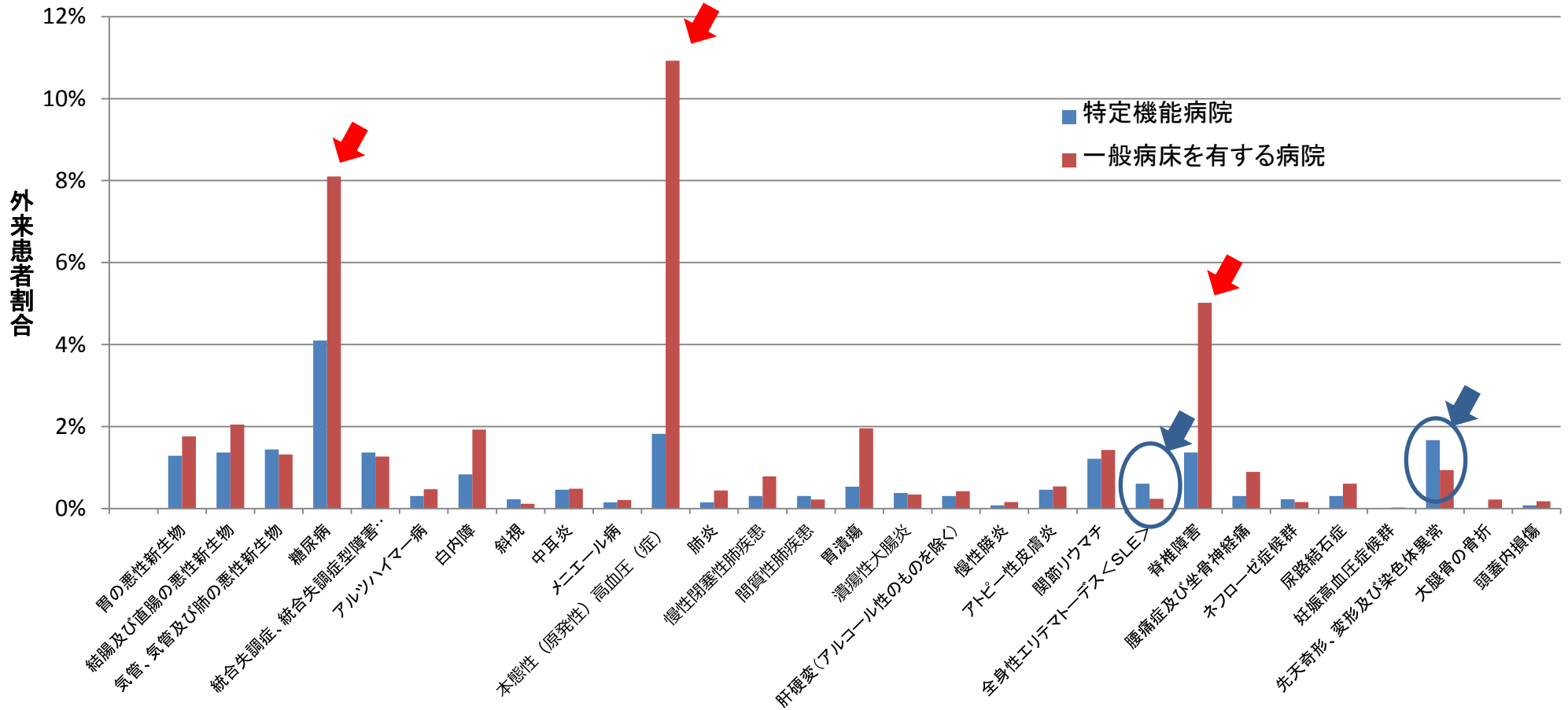
- 調査日における一般病院の推計外来患者(971.8千人)を疾病分類別にみると、「循環器系の疾患」が148.6千人で最も多く、次いで「筋骨格系及び結合組織の疾患」が113.6千人、「新生物」が102.7千人となっている。
- 特定機能病院についてみると、「新生物」が20%程度で一般病院の2倍程度となっており、地域医療支援病院についても、「新生物」の割合が大きくなっている。



「平成20年患者調査」を基に医政局で作成

患者総数に占める傷病別外来患者の状況 (特定機能病院と一般病床を有する病院)

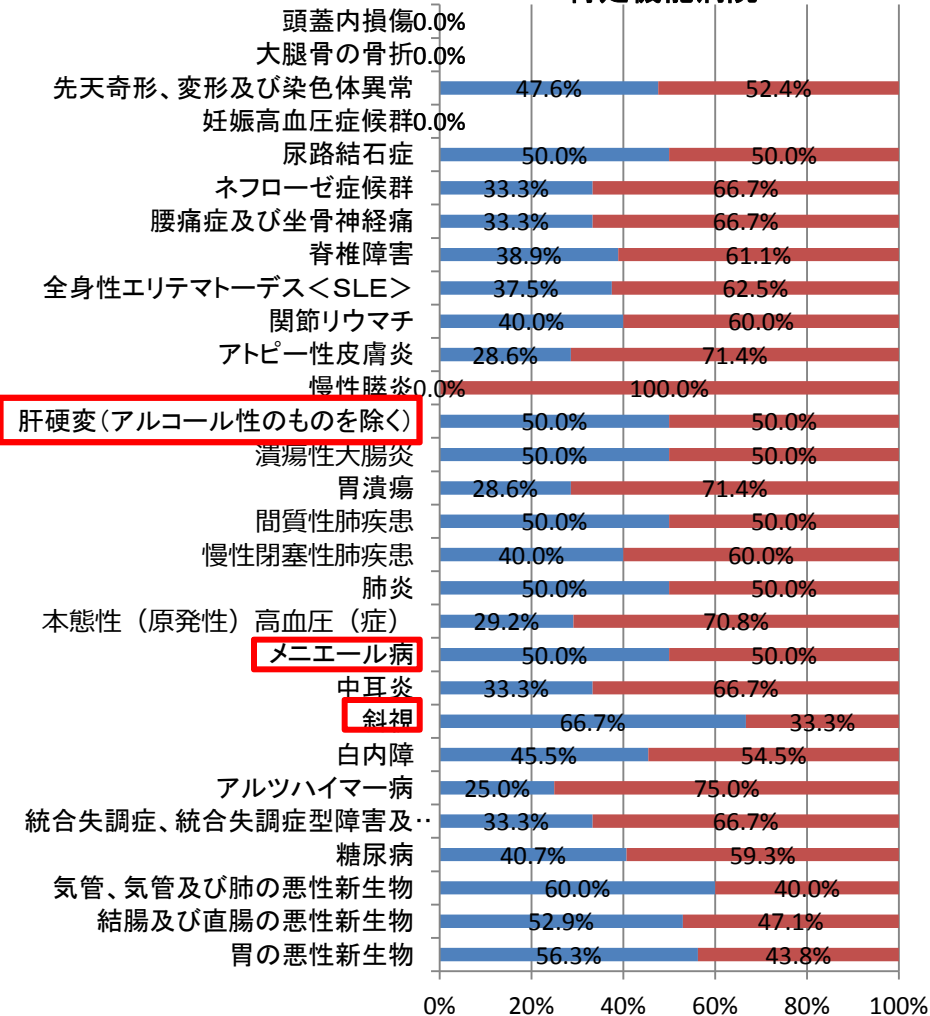
- 特定機能病院と「一般病床を有する病院」における、代表的な疾患の外来患者割合(外来患者総数に占める傷病別の患者数)の状況については以下のとおり。
- 特に本態性高血圧、糖尿病、脊椎障害については「一般病床を有する病院」における患者割合が高く、先天奇形・変形及び染色体異常、全身性エリテマトーデスについては、特定機能病院における患者割合が高い。



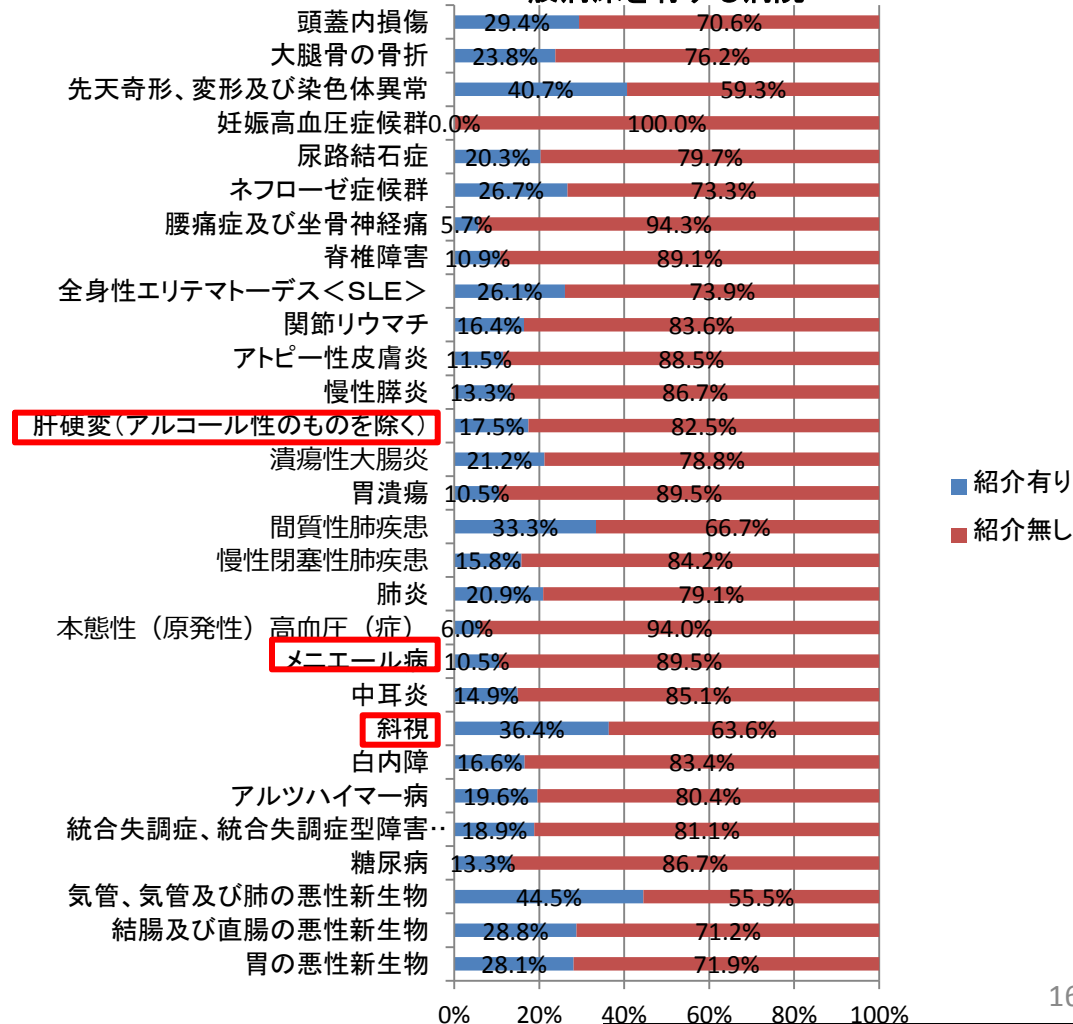
傷病別外来患者の紹介の状況 (特定機能病院と一般病床を有する病院)

○主な傷病別の外来患者の紹介の状況について、慢性膵炎を除く全ての傷病において、特定機能病院は一般病床を有する病院と比べて、「紹介あり患者」の割合が高い。特に、肝硬変(アルコール性のものを除く)、メニエール病、斜視では、紹介率の割合が30%以上高い。

特定機能病院



一般病床を有する病院



3. 地域医療支援病院の体制について

基本データ

○抽出調査である「平成20年患者調査」と全数調査である「平成20年病院報告」「平成20年医療施設静態調査」を基に、①地域医療支援病院226病院、②地域医療支援病院以外で一般病床を有する病院のうち、全病床が200床以上の病院（以下「一般病床を有する全病床200床以上病院」）1,177病院を対象にした分析を実施。

○「平均在院日数」とは、注釈がない限り、全病床の平均在院日数を指す。

なお、算定に当たっては、病院報告における定義 $\left(\frac{\text{年間在院患者延数}}{1/2 \times (\text{年間新入院患者数} + \text{年間退院患者数})} \right)$ を用いた。

※地域医療支援病院として承認を受けている病院は平成24年1月現在で386病院

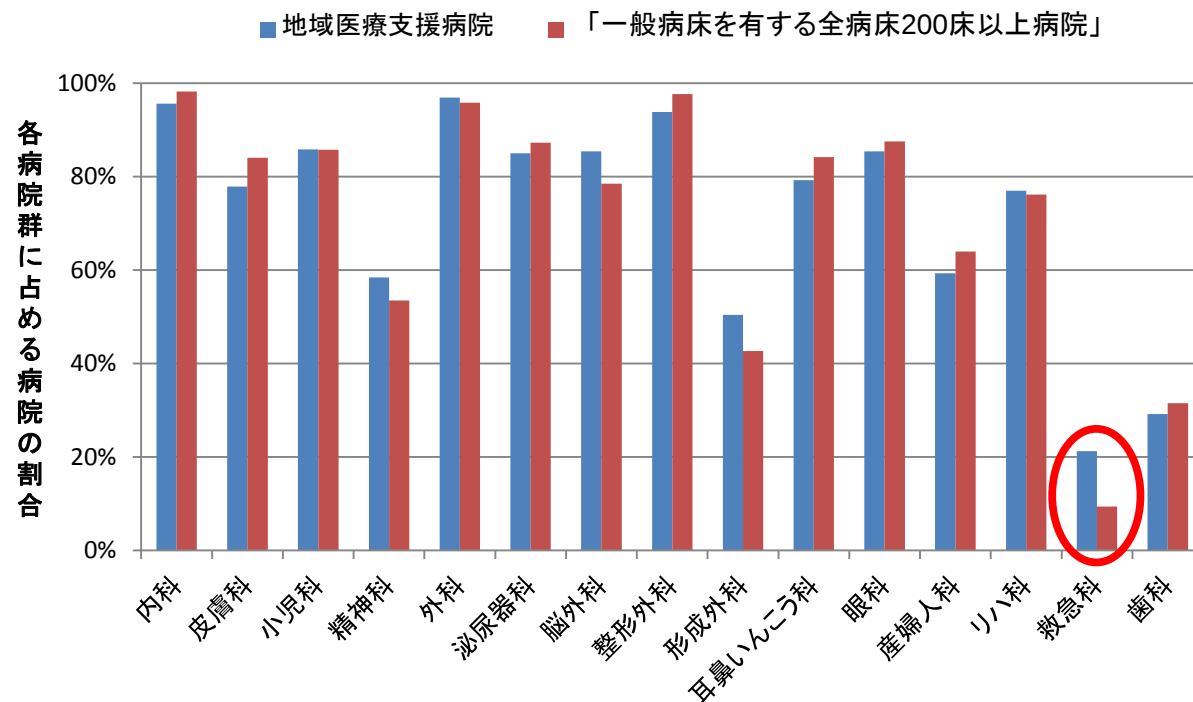
	①地域医療支援病院			②地域医療支援病院以外で一般病床を有する病院のうち、全病床が200床以上の病院（「一般病床を有する全病床200床以上病院」）		
	病院数	病床数	1病院当たり平均病床数	病院数	病床数	1病院当たり平均病床数
対象病院	226(※)	101,577	449.5	1,177	491,348	417.5
	患者調査の分析対象 226			患者調査の分析対象 1,069		
200床未満	12	1,915		-	-	
200床以上 300床未満	38	8,980		428	117,273	
300床以上 400床未満	48	16,403		330	116,831	
400床以上 500床未満	49	21,511		171	78,518	
500床以上	79	52,768		248	178,726	

標榜診療科の数

(地域医療支援病院と「一般病床を有する全病床200床以上病院」)

- 病院ごとの平均標榜診療科数について、地域医療支援病院と「一般病床を有する全病床200床以上病院」を比較しても、両者の間にはあまり差がない。
- 各診療群における診療科目ごとの当該診療科を標榜している病院の割合について、ほとんどの診療科において、地域医療支援病院と「一般病床を有する全病床200床以上病院」は傾向がほぼ同じとなっているが、地域医療支援病院では救急科を標榜している病院の割合が「一般病床を有する全病床200床以上病院」に比べて高い。

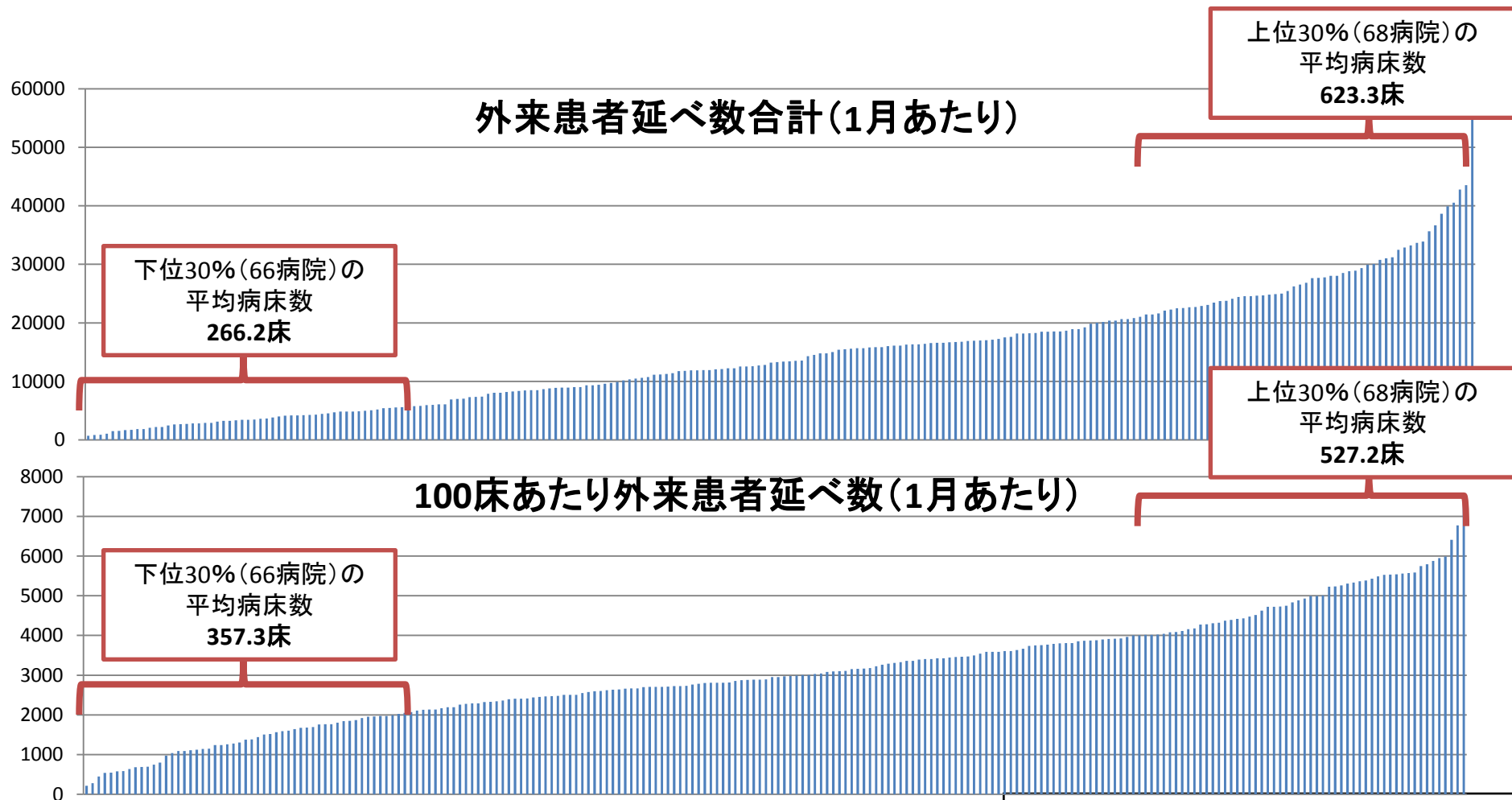
	標榜診療科数 (平均値)
地域医療支援病院 (226病院)	19.7
「一般病床を有する 全病床200床以上 病院」 (1,117病院)	18.0



4. 地域医療支援病院の外来の状況について

1月あたり外来患者延べ数(地域医療支援病院)

- 地域医療支援病院ごとに1月あたり(9月中)の外来患者延べ数をみると690人から60,244人まで、100床あたりに換算しても210人から7,521人まで分布しており、病院ごとの差が大きいといえる。
- また、外来患者延べ数の下位30%の病院の平均病床数は266.2床である一方、上位30%の病院は623.3床であることから、外来患者の数は病床規模に比例するといえる。



外来患者の紹介の状況

＜紹介の承認要件＞医療法第4条第1項第1号、医療法第16の2第1項第6号、医療法施行規則第9の16第6号

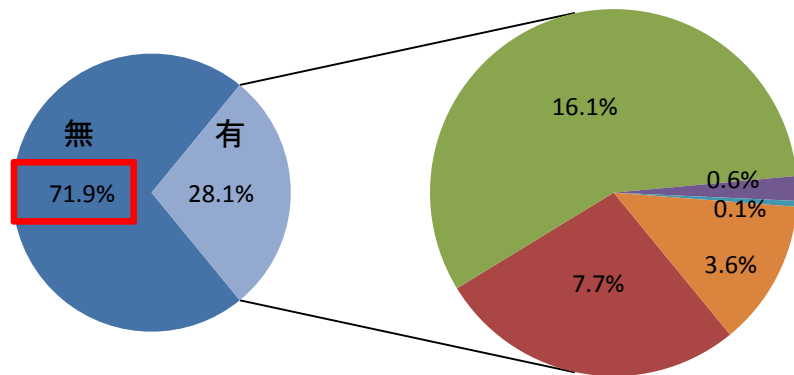
- 他の病院又は診療所から紹介された患者に対し、医療を提供すること。
- 紹介率が80%を上回っていること。
- 紹介率が60%を上回り、かつ、逆紹介率が30%を上回っていること。
- 紹介率が40%を上回り、かつ、逆紹介率が60%を上回っていること。

紹介率＝{(紹介患者の数＋救急患者の数)／初診患者の数}×100

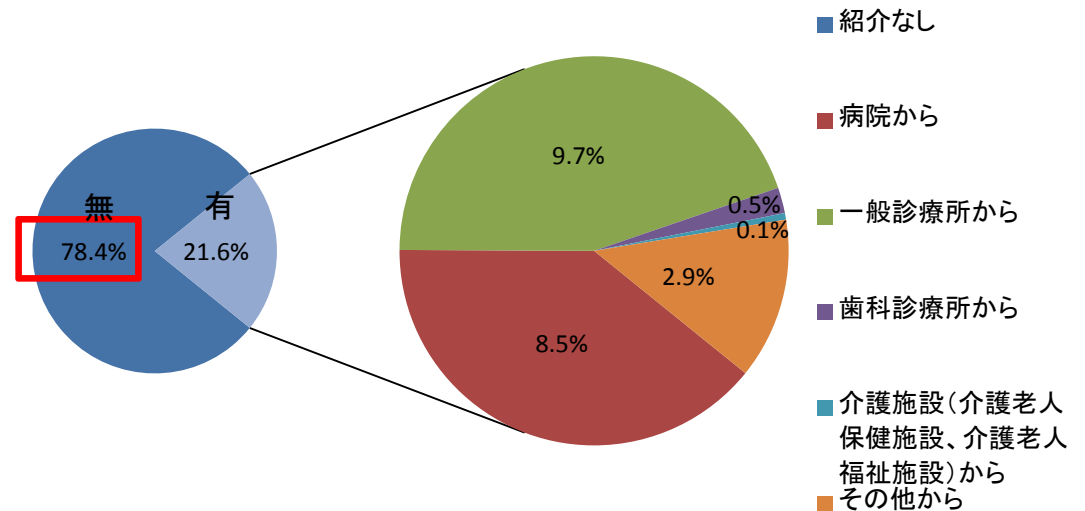
逆紹介率＝(逆紹介患者の数／初診患者の数)×100

○紹介なしの外来患者の割合について、地域医療支援病院は71.9%、「一般病床を有する全病床200床以上病院」は78.4%であり、地域医療支援病院の方が少ないものの、地域医療支援病院の紹介なしの外来患者は7割以上を占めている。

地域医療支援病院



「一般病床を有する全病床200床以上病院」



※ここでいう「『紹介あり』外来患者割合」とは、各医療機関における外来患者数に占める初診時の「紹介あり」外来患者数の割合を算出したものであり、特定機能病院の要件となっている紹介率の算定式により算出した割合ではない。

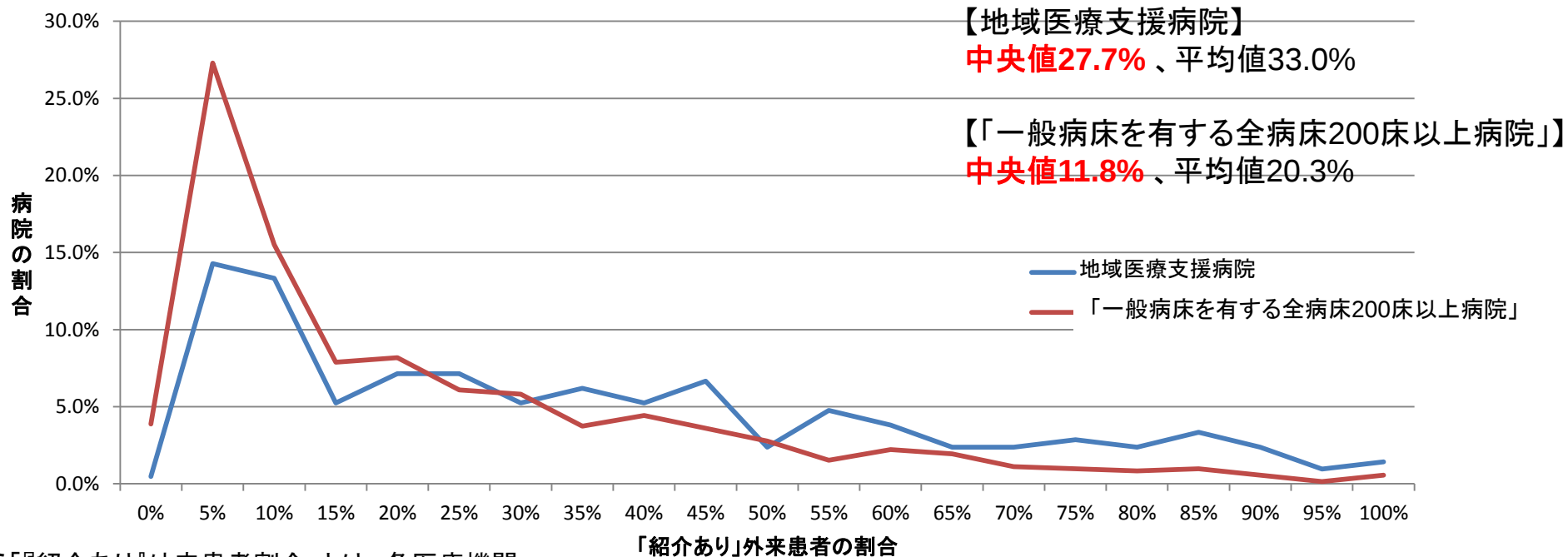
「紹介あり」外来患者の割合 (地域医療支援病院と「一般病床を有する全病床200床以上病院」)

○「紹介あり」外来患者について、地域医療支援病院(※1)と「一般病床を有する全病床200床以上病院」(※2)で比較すると、地域医療支援病院の方が「紹介あり」患者が多い。両者の中央値の比較では約16%の差がある。

※1地域医療支援病院の226病院中、調査月において、外来患者が1名以上であった210病院。

※2「一般病床を有する全病床200床以上病院」の1,177病院中であり患者調査の分析対象である1,069病院中、調査月において、外来患者が1名以上であった722病院。

○地域医療支援病院について、「紹介あり」患者が50%以上の病院は56(地域医療支援病院の26.7%)、5%以下の病院も31(地域医療支援病院の14.8%)と一定程度存在。



※ここでいう「『紹介あり』外来患者割合」とは、各医療機関における外来患者数に占める初診時の「紹介あり」外来患者数の割合を算出したものであり、地域医療支援病院の要件となっている紹介率の算定式により算出した割合ではない。

平均外来患者数

(地域医療支援病院と一般病床を有する病院)

- 1月あたり(9月中)の病院ごとの平均外来患者数について、地域医療支援病院と一般病床を有する病院(4,376病院)全体を比較すると、地域医療支援病院では14,644.0人であり、一般病床を有する病院全体では7,363.5人。両者の間には約2倍の差がある。
- ただし、平均外来患者数を100床あたりに換算すると、地域医療支援病院は3,080.0人、一般病床を有する病院全体では3,891.9人となり、地域医療支援病院の方が約800人少ない結果になる。
- また、そのうち「紹介なし」患者数について、100床あたりに換算すると、地域医療支援病院は2,265.5人、一般病床を有する病院では3,624.2人となり、地域医療支援病院の方が約1,400人少ない。つまり、地域医療支援病院では、100床あたりで比較しても、「紹介なし」患者が相対的に少ないといえる。

	平均外来患者数	平均外来患者のうち 「紹介なし」患者の数
地域医療支援病院	14,644.0人	10,784.7人
一般病床を有する病院(※)	7,363.5人	6,358.2人

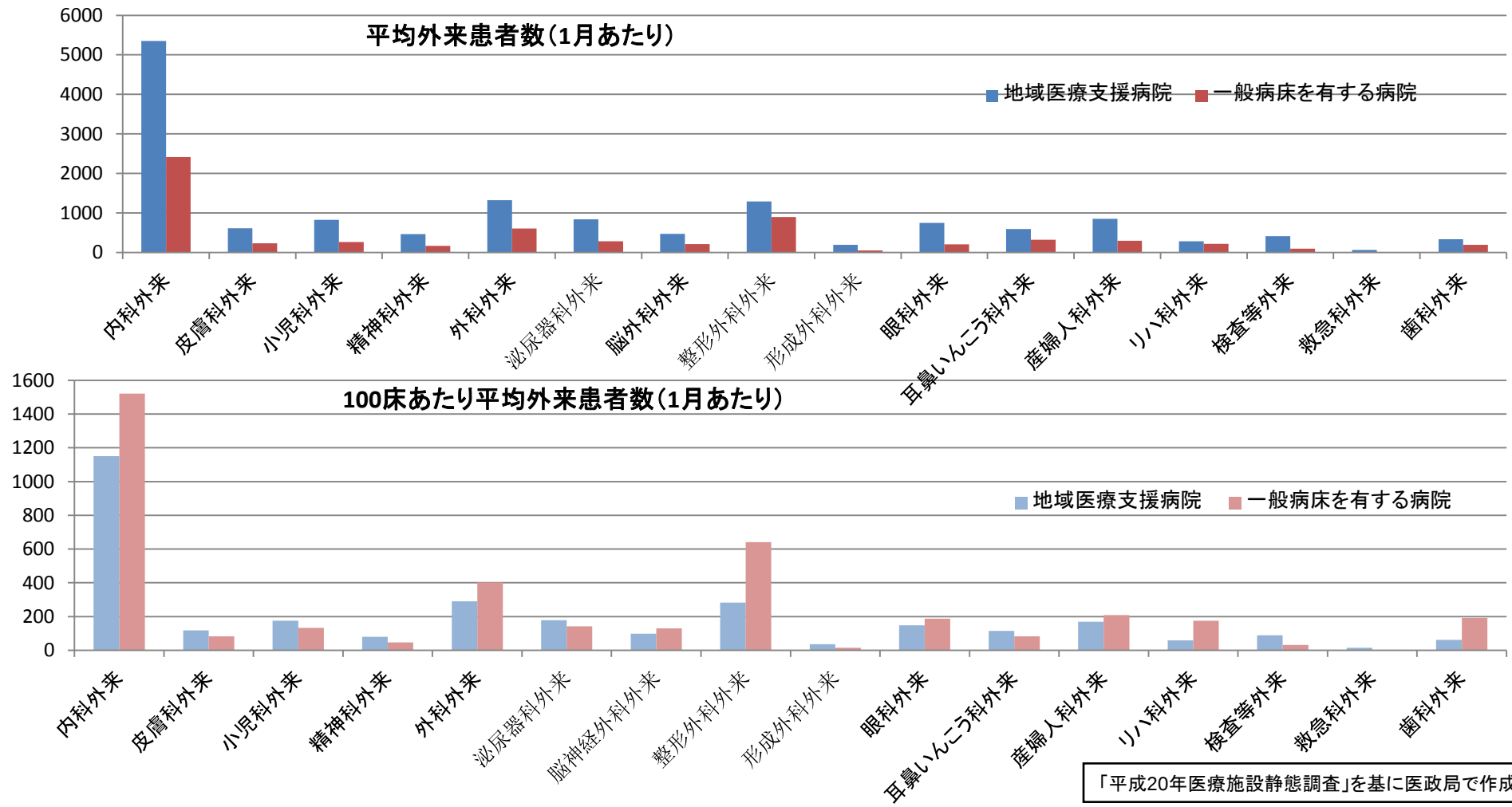
	平均外来患者数 (100床あたり)	平均外来患者のうち 「紹介なし」患者の数 (100床あたり)
地域医療支援病院	3,080.0人	2,265.5人
一般病床を有する病院(※)	3,891.9人	3,624.2人

※ここでの「一般病床を有する病院」は、6,028病院中、患者調査の分析対象である4,376病院のことである。

診療科別平均外来患者数

(地域医療支援病院と一般病床を有する病院)

- 1月あたり(9月中)の病院ごとの診療科別平均外来患者数について、地域医療支援病院と一般病床を有する病院(6,028病院)全体を比較すると、その傾向に差は見られない。
- ただし、診療科別平均外来患者数を100床あたりに換算すると、内科、整形外科、歯科等については一般病床を有する病院がより多く、検査、小児科、泌尿器科等は、地域医療支援病院の方がより多い。



平均外来患者数

(地域医療支援病院と「一般病床を有する全病床200床以上病院」)

○1月あたり(9月中)の病院ごとの平均外来患者数について、地域医療支援病院と「一般病床を有する全病床200床以上病院」を比較すると、地域医療支援病院では14,644.0人、「一般病床を有する全病床200床以上病院」では16,271.4人。両者はほぼ変わらない。

○ただし、平均外来患者数を100床あたりに換算すると、地域医療支援病院は3,080.0人、「一般病床を有する全病床200床以上病院」では3,729.8人となり、地域医療支援病院の方が約650人少ない。

○また、そのうち「紹介なし」患者数について、100床あたりに換算すると、地域医療支援病院は2,265.5人、「一般病床を有する全病床200床以上病院」では3,242.8人となり、地域医療支援病院の方が約1,000人少ない。

つまり、地域医療支援病院では、100床あたりで比較しても、「紹介なし」患者が相対的に少ないといえる。

	平均外来患者数	平均外来患者のうち 「紹介なし」患者の数
地域医療支援病院	14,644.0人	10,784.7人
「一般病床を有する全病床200床以上病院」 (※)	16,271.4人	13,425.2人

	平均外来患者数 (100床あたり)	平均外来患者のうち 「紹介なし」患者の数 (100床あたり)
地域医療支援病院	3,080.0人	2,265.5人
「一般病床を有する全病床200床以上病院」 (※)	3,729.8人	3,242.8人

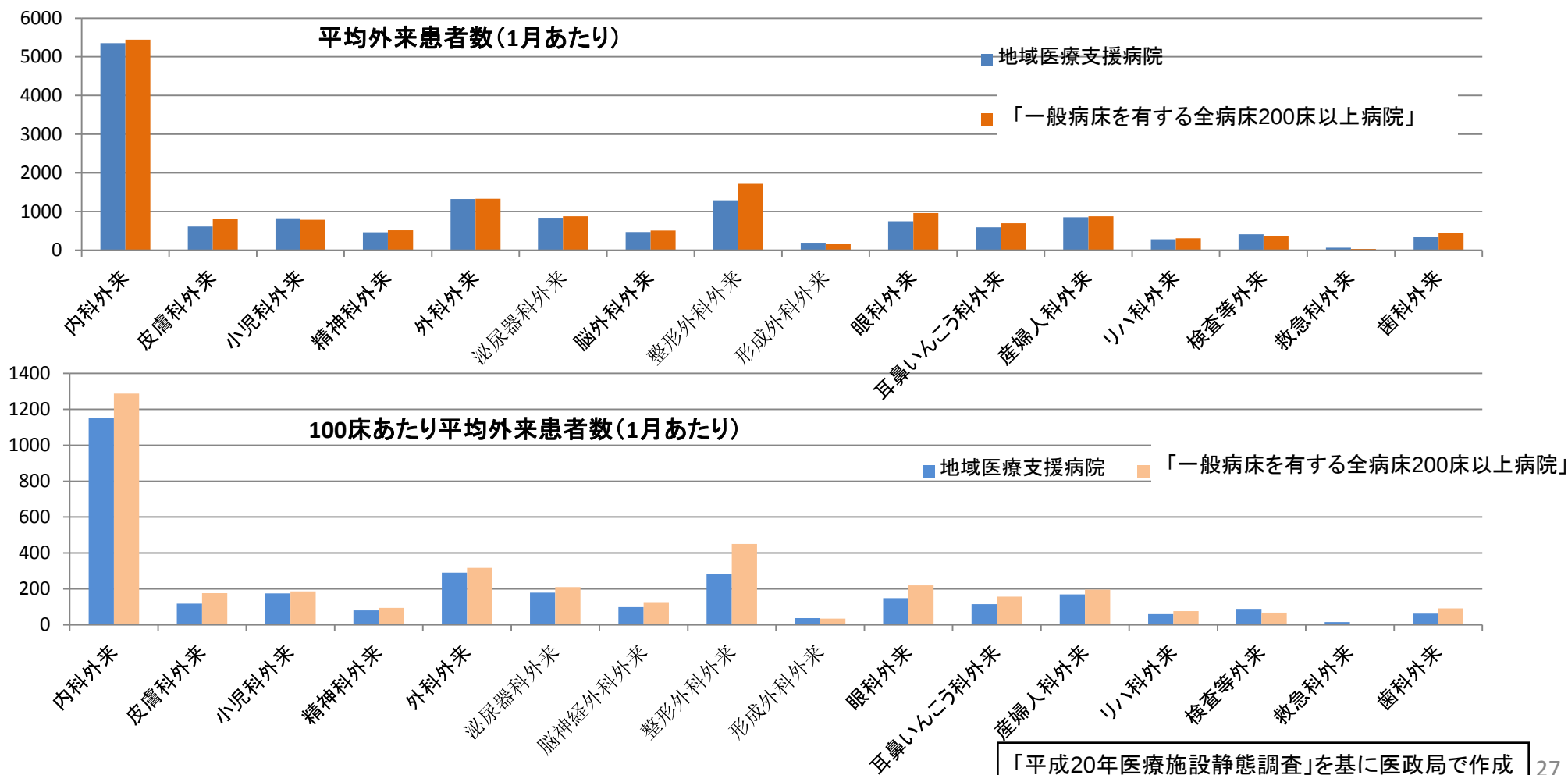
※ここでいう「一般病床を有する全病床200床以上病院」は、1,177病院中、患者調査の分析対象である1,069病院のことである。

「平成20年医療施設静態調査」「平成20年患者調査」を基に医政局で作成

診療科別平均外来患者数

（地域医療支援病院と「一般病床を有する全病床200床以上病院」）

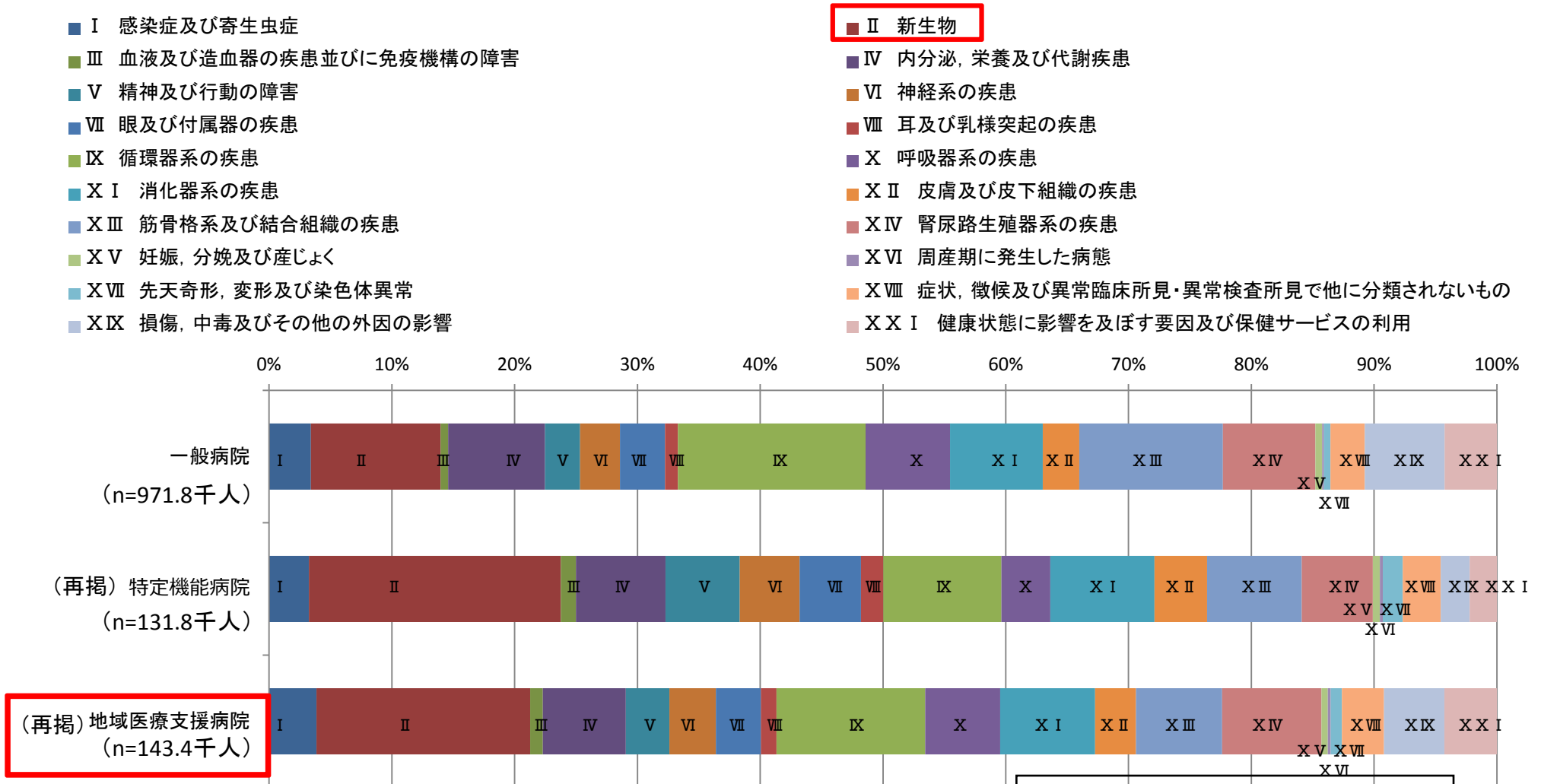
- 1月あたり(9月中)の病院ごとの診療科別平均外来患者数について、地域医療支援病院と「一般病床を有する全病床200床以上病院」を比較すると、その傾向に差は見られない。
- ただし、診療科別平均外来患者数を100床あたりに換算すると、整形外科、内科、眼科等については「一般病床を有する全病床200床以上病院」がより多く、検査、救急等は地域医療支援病院の方がより多い。



病院類型ごとにみた外来患者の傷病構成(割合) ～ 一般病院・特定機能病院・地域医療支援病院の比較 ～

再掲

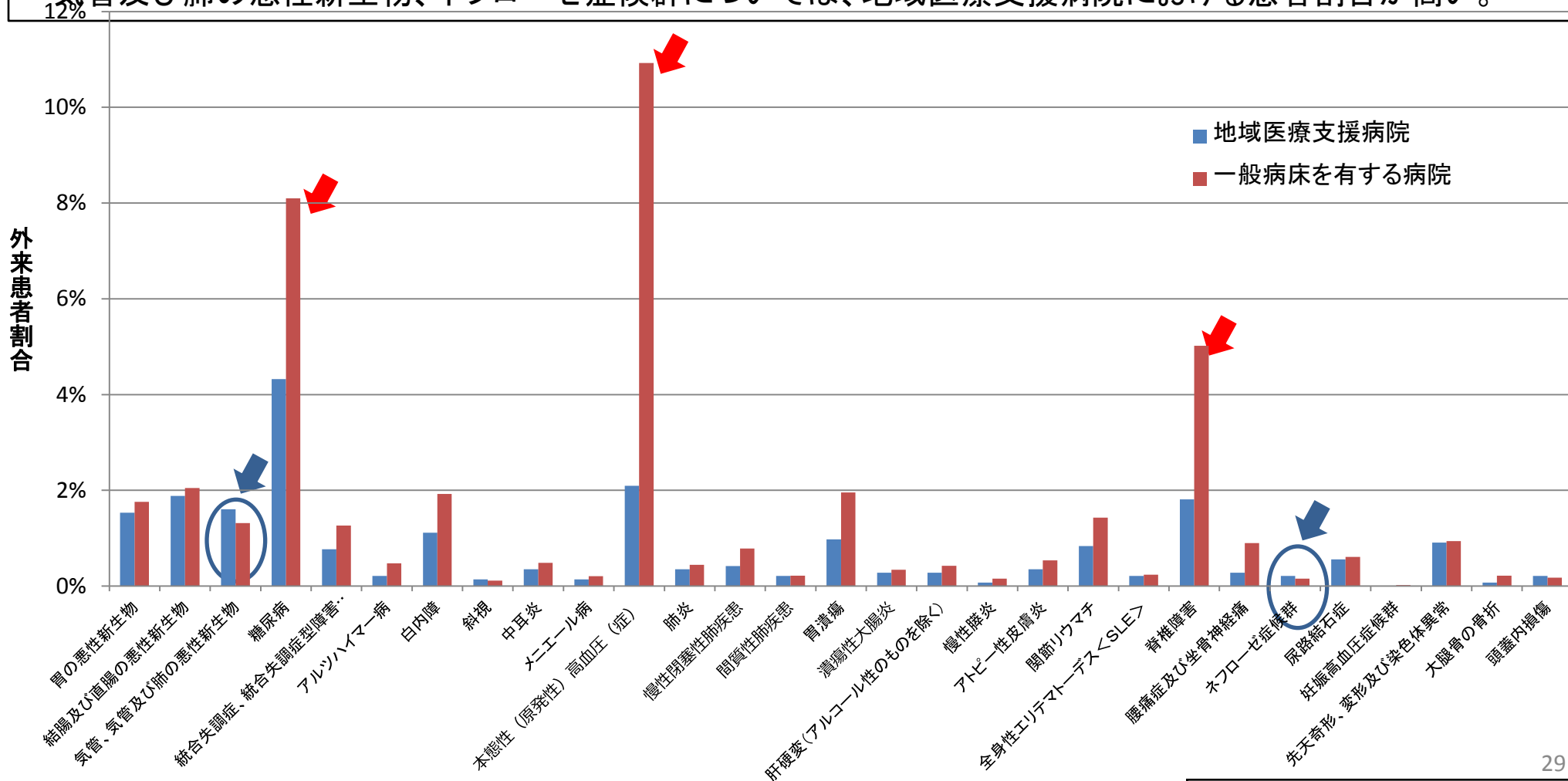
- 調査日における一般病院の推計外来患者(971.8千人)を疾病分類別にみると、「循環器系の疾患」が148.6千人で最も多く、次いで「筋骨格系及び結合組織の疾患」が113.6千人、「新生物」が102.7千人となっている。
- 特定機能病院についてみると、「新生物」が20%程度で一般病院の2倍程度となっており、地域医療支援病院についても、「新生物」の割合が大きくなっている。



「平成20年患者調査」を基に医政局で作成

患者総数に占める主な傷病別外来患者の状況 (地域医療支援病院と一般病床を有する病院)

- 地域医療支援病院と「一般病床を有する病院」における、代表的な疾患の外来患者割合(外来患者総数に占める傷病別の患者数)の状況については以下のとおり。
- 特に本態性高血圧、糖尿病、脊椎障害については「一般病床を有する病院」における患者割合が高く、気管・気管及び肺の悪性新生物、ネフローゼ症候群については、地域医療支援病院における患者割合が高い。

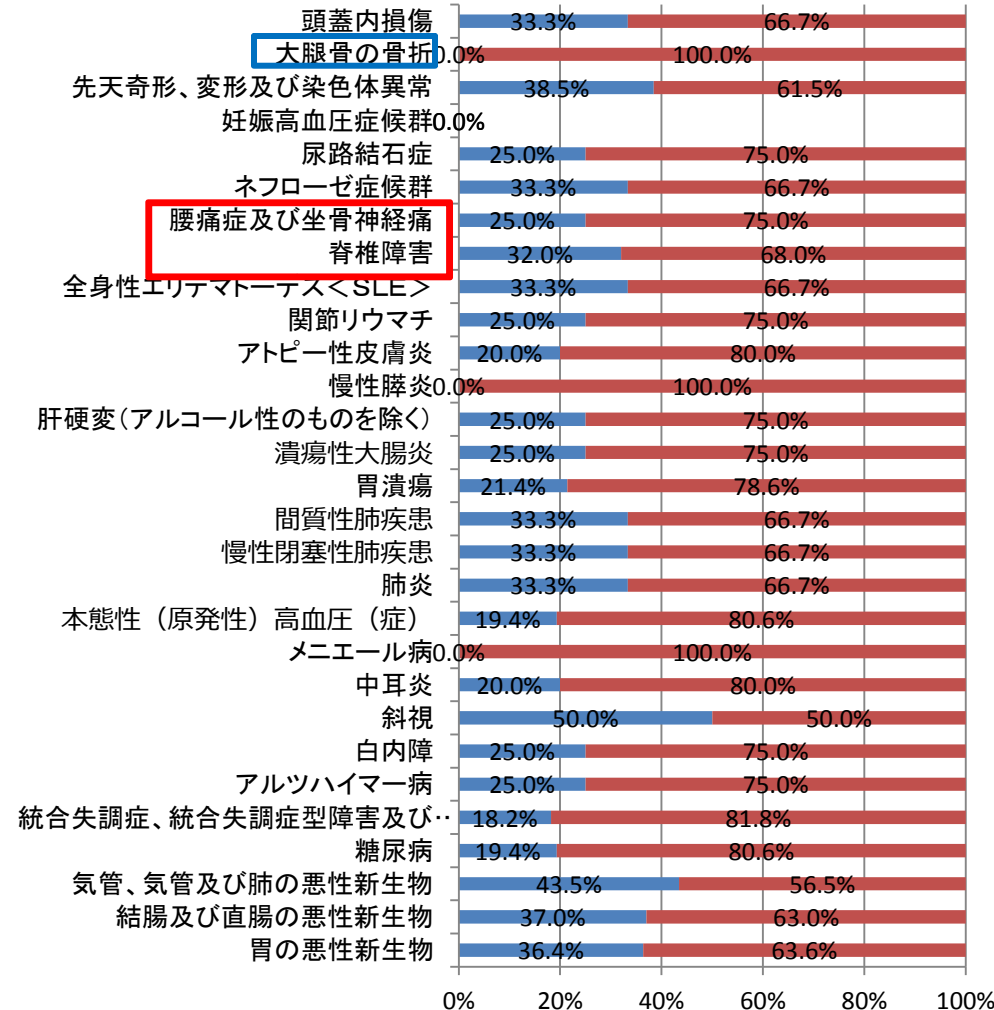


主な傷病別外来患者の紹介の状況 (地域医療支援病院と一般病床を有する病院)

○主な傷病別の外来患者の紹介の状況について、地域医療支援病院は一般病床を有する病院と比べて、

- ・脊椎障害、腰痛症及び坐骨神経痛の「紹介あり」外来患者の割合が約20%高く、
- ・大腿骨骨折の「紹介あり」外来患者の割合は約20%低い。

地域医療支援病院



一般病床を有する病院

